

令和5年度 東京都立南平高等学校 学校経営計画

校長 松永 今日子

1 目指す学校像

(1)【スクールミッション】

「これからの社会を担う人間」を目指すべき生徒の将来像とし、自立した個人として自主自律の精神を実践する人、有意な社会人として奉仕と連帯の精神を実践する人、平和的な国際人として正義を愛し人権を重んじ自他を深く愛する人を育成します。

(2)【スクールポリシー】

① グラデュエーション・ポリシー

「高い志を抱き、真摯に取り組み、進路を切り開く」

本校は、創立以来「学び」の基本として、2つのシンボルを掲げてきた。1つは、ギリシアのデルフォイにあったアポロン神殿の玄関の柱に刻まれていた「GNOTHI SEAUTON」(汝自身を知れ)という言葉であり、もう1つは、自主自律の精神を培う「ノーチャイム制」です。

自己の理想に向けて、自己を謙虚に見つめ、自己を磨き続ける生徒を育てることが、2つのシンボルに掲げられた願いです。この2つのシンボルの下、生徒の成長と希望進路実現を図り、これからの社会を担える人材を育成します。

② カリキュラム・ポリシー

- (ア) 組織的な授業改善を通して授業力を高め、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行う。
- (イ) スマート・スクール端末活用の推進を図り、授業から家庭学習へとつなげ、高等教育にふさわしい幅広い教養を身に付けさせる。
- (ウ) 3年間の進路指導計画に基づき、キャリア教育を実践し、自らの人生を切り開く力を育成する。
- (エ) 学校保健計画に基づき、健康と体力の自己管理能力を高める。
- (オ) ノーチャイム制の理念を基礎に、日常行動の自己管理能力を高める。
- (カ) コミュニケーション能力や人間関係づくりの向上に向けて、専門的な指導助言を行う。
- (キ) 学校行事や部活動などを通して、人間性を磨き、健康の増進と体力の向上を図る。
- (ク) 地域と連携した防災活動やボランティア活動を推進し、社会貢献の意識と実践力を醸成する。
- (ケ) 我が国の文化・伝統・歴史への理解を深め、国際社会で活躍できる教養とマナーを身に付けさせる。
- (コ) 人権を尊重し合い、いじめや体罰がなく、生徒が安心して学習できる環境をつくる。

③ アドミッション・ポリシー

多摩丘陵の麓に位置し、自然に恵まれた本校において、生徒たちは、学習活動はもちろん、様々な活動に積極的に取り組み、伸び伸びと高校生活を送っています。その一員として、多くのことに関心をもち、自ら学び、考え、活動するという主体的な生徒、積極的に本校に進学する意志のある、以下の項目に該当する生徒を期待します。

- (ア) 学習活動に意欲的に取り組む習慣ができており、予習・復習など家庭学習を継続的にしている生徒
- (イ) 学校行事、部活動、生徒会活動、社会貢献活動等で中心的な役割を果たし、今後も継続的な活動が期待できる生徒
- (ウ) 将来の進路への目的意識をもち、自己の適性、資質、能力を意欲的に伸ばし、進路実現に向けて努力することのできる生徒

2 中期的目標と方策

(1) 学力向上「わかるからできるへ、授業の質の保証」

スクールミッション達成を目指し、各教科で相互授業参観等OJTを活用した指導方法の更なる改善を進め、生徒の学力の全体の層の引き上げを図る。その際、学習課題に応じた個別指導及び組織的な補習・講習等の学習支援体制の充実を図る。また、言語能力の向上を図るため、読書活動や言語活動の推進など多様な取組を展開

する。種々の教育活動を通じて身に付ける「深い学び」の実現に向け、全校を挙げて取り組む。

(2) 進路実現「高い志に向けてチャレンジさせる指導」

3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部主導による組織的・計画的な進路指導を行う。生徒が自己の適性を見極め、進路情報を活用し、納得のいく進路選択を行えるよう支援する。また、大学入学共通テストへの対応を図り、進路講演会、講習、最新の進路情報の提供、大学との連携強化、面談等による、早期からの進路実現支援体制の強化を図る。模試分析会を通じ、学年と授業担当者間での情報共有を図る。

(3) 心・知・体を磨く「学校生活全般に渡って、濃やかな指導」

開校以来のノーチャイム制の理念を基礎に、学習、部活動、委員会、学校行事で人間性を磨き心身を鍛え、自主自律の精神に基づき自己管理ができる生徒を育成する。また、学校保健計画に基づき、健康と体力の自己管理能力を高める指導を行う。さらに、いじめのない学校を目指し、生徒の人権が尊重される学校環境づくりを更に推進する。また、自分を愛し、他者を認め、生命を尊重する態度を醸成する。

(4) 地域等との連携「生徒・保護者・地域の人々に理解され信頼される学校」

地域及び関係機関と連携した防災教育やボランティア活動を推進し、社会に貢献できる能力と精神を育成する。また、生徒・保護者・地域からの学校評価アンケートを更に活用し、学校改善を進める。さらに、学校全体の広報活動を活性化し、生徒・保護者・地域の方々の学校への信頼感を更に深める。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学習指導

- ① 生徒の進路希望を叶える教育課程の編成と実施を行い、習熟度別授業展開を数学・英語で実施し、学期ごとに評価し達成度に応じた指導に取り組む。
- ② 教科主任会・教科会・学年会で、定期考査・模試・課題テスト等による個々の生徒の学力習熟度、学習状況を共有し、個々の生徒の進路希望実現を目指す。
- ③ 教科担当者は学校内外の授業参観、教職員研修センターの研修等に参加するなど、常に授業改善を行い、授業目標の明示、大学入試・模試を意識した内容、知的好奇心を刺激し自己学習へつながる授業、適切な小テスト・課題を行い、「スクールミッション」の達成を目指し、全体層の引き上げを行う。
- ④ 教科担当者は、読書活動、発表(口頭・文章)、定期考査での記述力、論述力を図る問題作成の機会を作り、言語活動の充実を図る。
- ⑤ 東京薬科大学との高大連携やSIP(Scientific Inquiry Program)拠点校としての活動を通じ、理数分野に興味・関心のある生徒に探究活動の機会の提供と、継続的な指導を支援し、生徒の意欲の向上と進路実現に資する。
- ⑥ 教科主任会・教科会を通じ、教科指導の重点の確認を行う。いかなる環境下でも学びを止めない教育活動のためにICT機器等の積極的活用等から、教員一人ひとりが目標を設定し、主体的で深い学びを目指した教育を推進する。

(2) 進路指導

- ① 「進学指導研究校」(第三期)として、進路指導部を中心に組織的な進学指導体制の確立に取り組み、教員の進学指導の実践力と教科指導力をさらに高める。
- ② 進路指導部が主導し、3年間のキャリア教育年間指導計画に基づき、学年・教科主任会と連携し、生徒・保護者に進路通信・講演会等で情報発信を行い、「自ら希望する進路を決定できる指導」、「進路希望を実現させる指導」を行う。また、進路指導室の進路関連書籍を充実させ、常に閲覧できる体制を構築し、個々の生徒に応じた情報を提供する。
- ③ 進路指導部が3学年と連携し、大学入学共通テストに向けた出願指導研究会を実施するとともに、学校内外の進路研修会へ教員の参加を促進し、学校全体の進路指導力向上を図る。教員は、模試結果ソフトの閲覧による個々の生徒の状況把握を行い、進路指導部主催の各学年の模試分析会に参加し、分析結果を授業改善、生徒の面談等に生かす。
- ④ 進路指導部と学年・教科主任会が連携し、学習記録表の記入の定着により自主学習時間の増加を目指す。また、長期休業中の補習・講習を取りまとめ、効果的な講習を実施する。また、進路指導部、総務部、学年が連携し、自習環境の整備・運営に努める。

- ⑤ 学年は、年2回の保護者会、年2回以上の個人面談(二者、または三者)を実施し、生徒や保護者の状況を把握し、諦めさせない進路指導を行う。
- ⑥ 進路指導部が窓口となり中央大学オープンキャンパス南平版(中大ガイダンス)、首都大学東京オープンキャンパス、多摩地区国公立大学合同説明会を始め各大学のオープンキャンパス・説明会を活用した指導を充実させる。また、東京薬科大学との高大連携を活かした医薬系の進路指導の充実を図る。

(3) 生活指導

- ① 生活指導統一基準による生徒の自己管理能力の向上と社会の規範意識の育成、マナー育成を図る。
- ② 教育活動全般において、適切な指導・助言を行い、生徒の自主的な企画運営を促し、自主自律の精神、自己管理ができる生徒を育成する。
- ③ 清掃区域担当者による日々の清掃の生徒指導・清掃状況確認を徹底し、学年は、掲示物、机・椅子等が整然としているHR教室の環境を提供する。
- ④ 生活指導部は、セーフティ教室をはじめ生活指導全般で、交通安全、薬物乱用防止、情報モラルの指導を行う。
- ⑤ 生活指導部と学年・教科担当者は連携を図り、月ごとに遅刻生徒を集計し時間を守る意識の醸成の対策を講じる。また、登下校時の通学マナーや挨拶、身だしなみ指導を行う。
- ⑥ 人権感覚と道徳観、生命尊重の精神の醸成のために、始業式・終業式、HR、集会、講演会等で絶えず、指導を行う。また、あらゆる教育活動を通じSOSの出し方に関する教育の推進を図る。

(4) 特別活動・部活動

- ① 部活動顧問は、活動時間・下校時刻の厳守、ガイドラインに基づく原則平日週1回、土日のうち1回を休養日の設定、部員への指導・助言により学習・学校行事・部活動の両立を進める。また、部活動年間指導計画の部員への配布、部活動保護者会開催により、部活動顧問と生徒・保護者の連携を図る。
- ② 「人間と社会」推進委員会は、1学年・全分掌、関係諸機関等と連携し、教科「人間と社会」の目標である「よりよい生き方を主体的に選択し行動する力」を育成する。
- ③ 部活動は、中学生1日部活動体験、地域行事への参加等、地域と連携した活動を進める。
- ④ 日野市日米交流協会と連携し、海外学校間交流推進校の制度を活用し姉妹校締結を行う。日野市の交流事業に参画し、本校の生徒の国際理解教育に資する。

(5) 健康づくり

- ① 学校安全計画、保健計画を作成公開して保護者の理解にも努め、健康教育と食育への理解啓発を図る。
- ② 感染症、アレルギー対策等について、生徒の状況を把握し、マニュアルをもとに全教員が共通理解して対応できるようにする。
- ③ 「TOKYO ACTIVE for students」を踏まえ、体力向上に取り組むため、統一体力テスト結果を分析し、保健体育の授業をはじめ学校行事、部活動、HR活動等で社会を担えるための体力・気力・精神力を育む。また、「エンジョイ スポーツ プロジェクト」を活用し、専門家等との連携を行い、健康的な生活習慣の実践を促すことを通して、豊かなスポーツライフに向けた都立高校生の資質・能力の向上を図る。

(6) 防災教育

- ① 防災教育年間指導計画に基づき、全教職員体制で防災教育を推進する。非常時に備えた緊急時の連絡体制を整備する。
- ② 年4回の避難訓練、年1回の防災講話、年1回の防災体験、年1回の防災活動等を関係機関や地域と連携して実施する。

(7) 広報活動

- ① 総務部がとりまとめ、全教職員体制による学校広報活動を行う。
- ② Webサイトの活用を図り、日々本校の教育活動を広く発信していく。

(8) 特別支援教育

- ① ユニバーサルデザインの観点から、個別の支援が必要な生徒に対応する。
- ② 教育相談、特別支援教育の校内研修会を実施して、教職員の資質の向上と共通理解を図る。
- ③ 教育相談委員会を定期的開催し、組織的に、いじめ未然防止、生徒の心のケアを行う。個別の支援教育が必要な生徒には、特別支援教育コーディネータが中心となり、特別支援教育に関する委員会で、個別の支

援教育を推進する。関係諸機関との連携を図る。

(9) **組織体制**

- ① 分掌・教科・学年を単位として、企画調整会議で調整を図り、組織的な学校運営を行う。
- ② 学校運営連絡協議会の提言を学校経営に反映させるとともに、協議委員による学校応援体制を構築する。
- ③ 一人の力に頼らず、全教職員が協力・協働して、組織として活動できるように、組織運営力を高める。
- ④ ベテランから若手へ、前担当者から新担当者へ業務を傳承し、教職員個々の新たな能力を伸ばすことができるよう全教職員が協力して教育活動・学校運営を行う。企画立案・実施した教育活動については、すぐに評価し次の活動の改善に活かしていく。
- ⑤ 事前に調整、周知を図り、会議時間の短縮を図るとともに、行事及び業務精選を図るために、積極的に所属教職員から改善提案を聞き、改善を図り、ライフワークバランスの推進を図る。
- ⑥ 経営企画室を中心に事務処理の効率化を図り、保護者等への丁寧な説明と対応を推進する。

(10) **その他**

- ① 日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり、服務事故防止に努める。また、管理職自らが率先してクリーン化を図り、今までの管理方法を見直し、組織的なチェック体制をつくり、保有個人情報の管理を徹底させ 情報流失・紛失の防止に努める。
- ② 体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。
- ③ 管理職は所属職員の心身にわたる健康状態に気を配り、相談、報告できるよう何でも言い合える明るい職場風土づくりを目指す。

4 重点目標と方策

(1) **学力向上**

すべての生徒の学力向上を目指し、組織的・計画的な学習指導体制の充実を図る。また、教科主任会を中心とした組織的・計画的な教科会での研修活動の充実を図る。

(2) **進路実現**

3年間のキャリア教育年間指導計画に基づき、学年・教科主任会と連携し、生徒・保護者に情報発信を行い、「自ら希望する進路を決定できる指導」、「進路希望を実現させる指導」を行う。

(3) **広報・募集活動の更なる充実**

総務部が中心となって企画・立案し、学校説明会、Webサイト等による広報活動を推進する。

(4) **自己管理能力の向上と規範意識の育成**

生活指導統一基準による生徒の自己管理能力の向上と社会の規範意識の育成、マナー育成を図る。また、人権教育と道徳教育の推進、教育相談の活用により、いじめ防止、生徒の心のケア、個別の支援教育が必要な生徒への個別の支援教育を行う。

【数値目標】

- ・生徒による授業評価：肯定的評価 85%以上
- ・大学入学共通テスト得点全科目で全国平均以上
- ・大学入学共通テスト受験科目得点 70%以上 30%
- ・国公立・難関私立大学・GMARCH 進学者数 110 名以上
- ・体力テスト全種目全国平均以上
- ・部活動加入率 90%以上
- ・学校評価アンケート：進路指導満足度 85%以上
- ・学校評価アンケート：学習と部活動の両立 70%以上
- ・学校評価アンケート：行事満足度 90%以上
- ・学校評価アンケート：環境整備に関する満足度 80%以上
- ・ウェブサイト更新 300 回以上
- ・入選倍率 推薦 2.4倍以上 一般 1.55倍以上